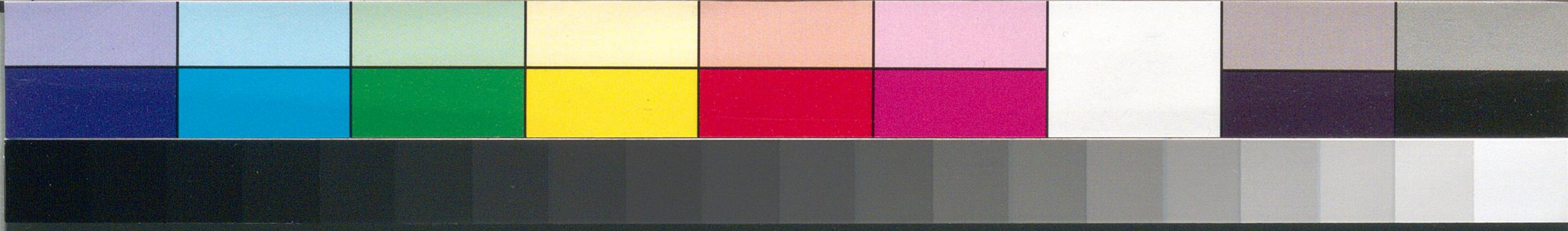


陸軍省

政治官署
水野直殿



50
7/04

造船協會會長 工學博士山本開藏

東京市麹町區有樂町一丁目一番地
(丸ノ内仲通六号館ノ三)

造船協會

謹啓

本協會に設けたる造船振興調査委員會に於て關稅
定率に關し調査したる資料別冊御參考迄に劉覽に
供し候 敬具

大正十四年九月廿四日

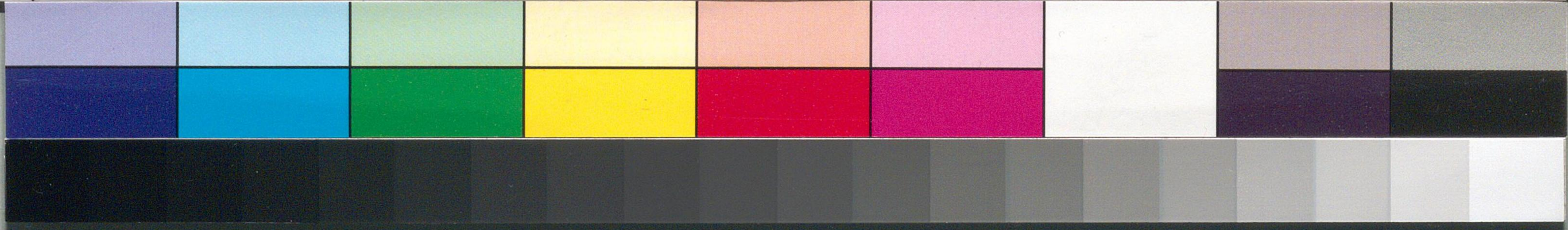
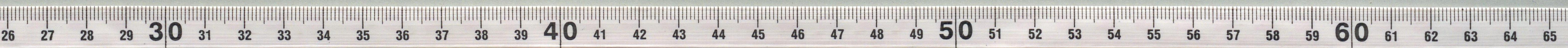
造船協會々長工學博士 山本 開藏

陸軍省改務次官 水野直 啟

造船振興調査會報告書

關稅定率法改正ニ關スル件

造船協會



国立国会図書館 水野直關係文書 41

海軍省 造船部 造船課 造船課長 造船課長 造船課長

關稅定率法改正ニ關スル件

一、船舶ノ輸入税ハ其ノ年齢ニ拘ラス總噸數一噸ニ付二十二圓五十錢トナスコト。

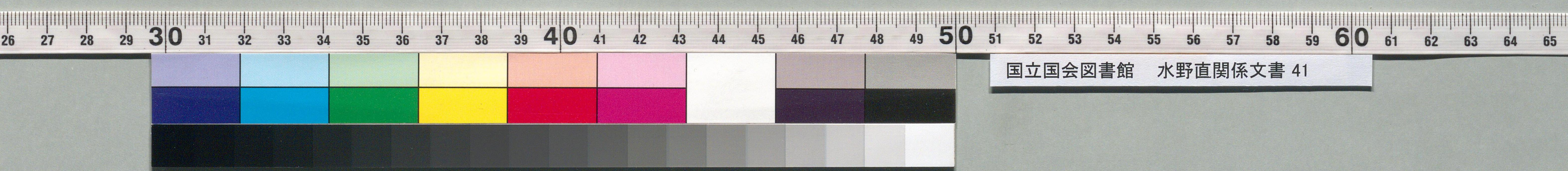
(理由) 現行率ハ外國ヨリ輸入スル新造船ノ平均價格ヲ總噸數一噸ニ付百五十圓ト推定シ、之カ從價一割ヲ目安トシテ十五圓ト定メラレタリ。然ルニ現在ノ造船費ハ材料並ニ勞銀ノ騰貴ノ爲メ少クモ戰前ニ比シ五割以上ノ騰貴ヲ爲シ、現行稅率ヲ以テシテハ外國ノ造船業ニ對抗シ難ク、我國ハ毎年多數ノ外國船ヲ購入シツ、アルニ拘ラス、内地新造船ノ註文ハ頗ル稀ニシテ造船業經營ノ困難ハ日ニ増シ深刻トナレリ。之ヲ救正スル爲メ少クトモ前記ノ率ニ改正シ、老朽船ノ輸入ヲ妨止シ造船業ヲ保護スルノ必要アリト認ム。

二、老朽船ノ輸入ヲ妨止スル爲メ船齡二十年以上ノ船舶ノ輸入ヲ禁止スルコト。

(理由) 前項ノ輸入稅率ノミニテハ、投資ニ近キ廉價ヲ以テ老朽船ヲ輸入シ我國ノ健全ナル海運業ヲ脅威スルヲ妨止スルニ足ラス。現ニ大正十年來古船ノ本邦ニ輸入セラレタルモノ百三十五隻、約八十萬噸(重量噸)中船齡二十年ヲ超ユルモノ實ニ八十四隻、約四十九萬噸(重量噸)ノ多キニ達セリ。此ノ如キ老朽船ノ跋扈ノ爲メ海運界ノ不況ヲ遞加シ、造船業ノ不振ヲ來シ其弊ノ及ブ所蓋シ計ルベカラザルモノアリ。依テ此際斷然之カ輸入ヲ禁止スルハ國家産業政策上當然ノ處置ナリト認ム。

三、兵器ノ輸入稅免除ヲ廢スルコト。

(理由) 現行法ノ下ニ陸海軍カ兵器ト看做シ無稅トシテ外國ヨリ輸入セラル、モノ、内、本邦工業ノ發達ニ依

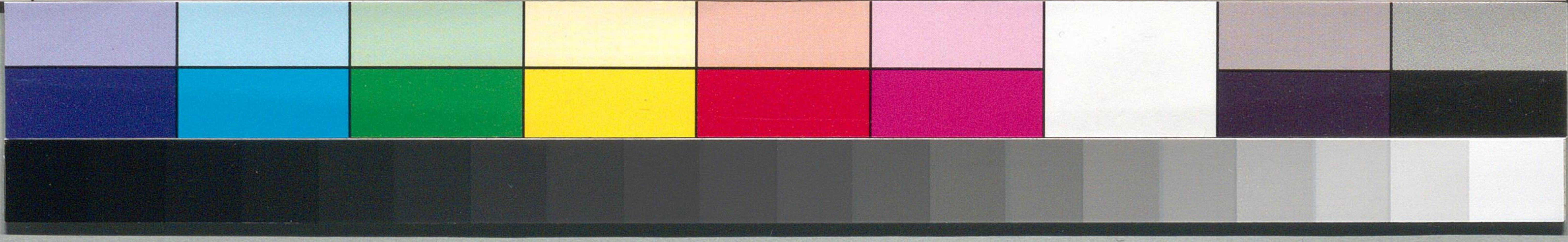


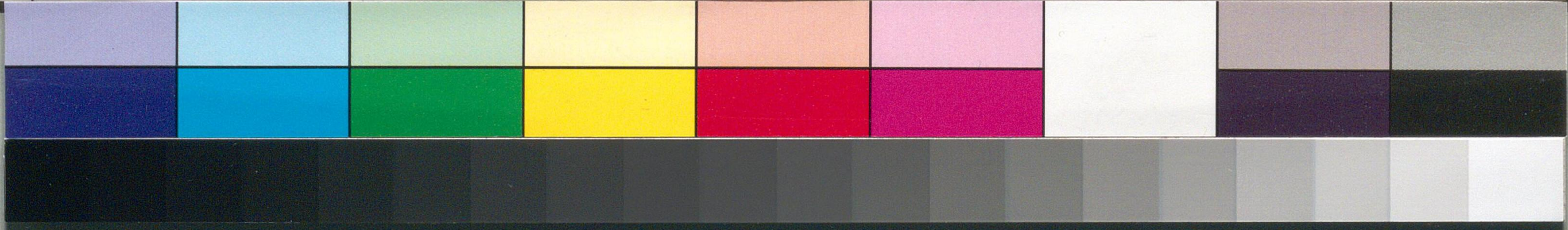
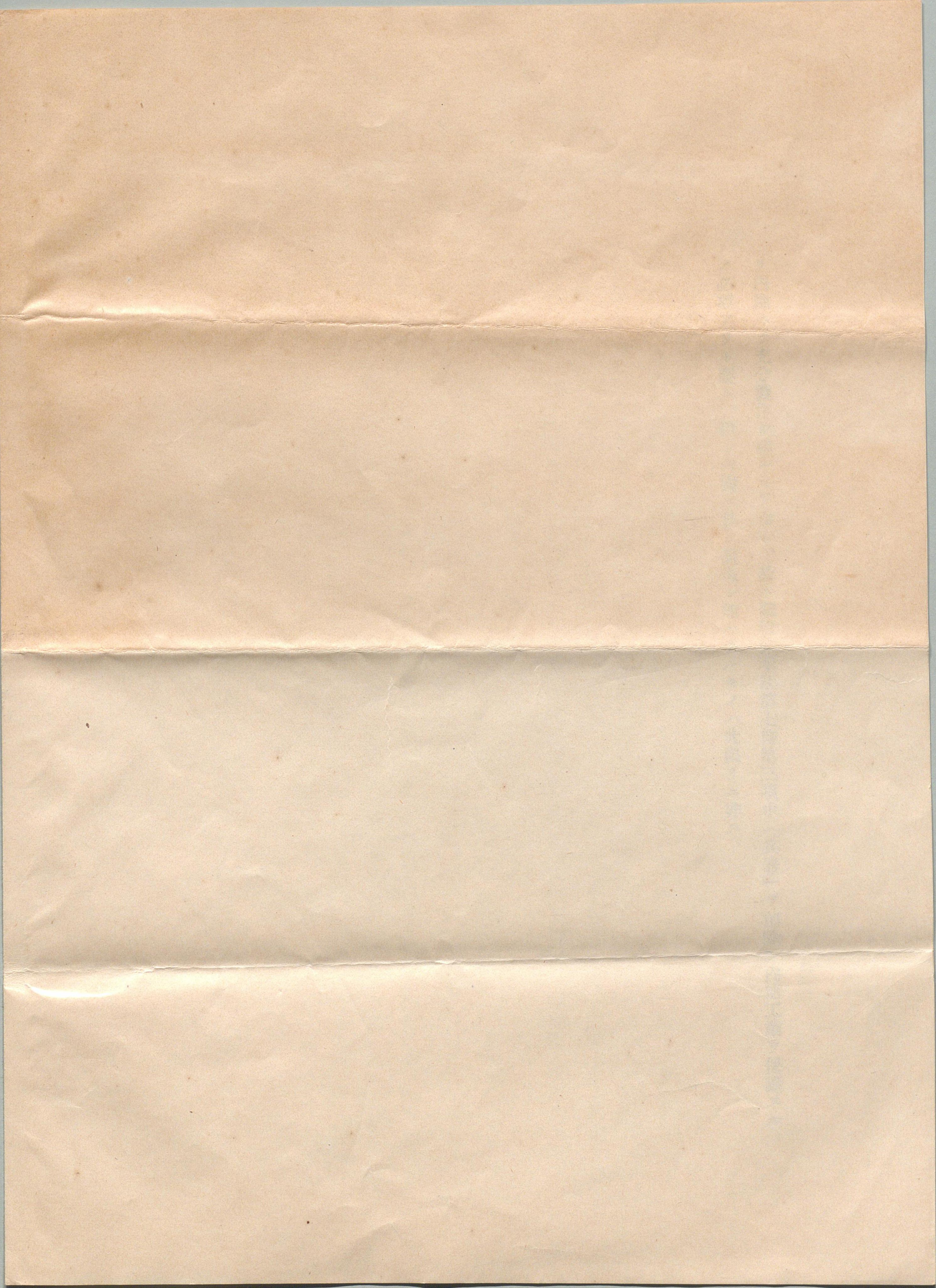
リ内地ニテ充分製作シ得ルモノ多シ、故ニ關稅定率法第七條第三項中「兵器」ヲ削除シ内地工業ヲ保護スル
ノ必要アリト認ム。但シ内國ニ於テ製造シ能ハザルモノハ此限リニ非ス。

二

關稅定率法第五二條スルヲ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title '關稅定率法第五二條スルヲ' and several columns of vertical text.)





国立国会図書館 水野直関係文書 41